

学校だより

# にしずえ

甲斐市立双葉東小学校

平成21年1月16日号

## 今年も学校は「安」でありますように！

明けましておめでとうございます。本年も皆様方に取りまして、幸多い1年となりますよう心より願っています。そして、今年度も昨年度同様、双葉東小学校教育に対し絶大なるご支援・協力のほどをお願いいたします。

平成20年から21年に年が変わり、各家庭でそれぞれの家風を反映した年越しの風景が展開され、家族一人ひとりの無病息災が祈念されたことと思います。ちなみに我が家でも正月行事が行われました。年々同じことの繰り返しを行っていますがなぜか毎年新鮮なのです。今年、私の神仏へのお願いは、当然ながら家族全員の無病息災と、そして『双葉東小学校児童の健やかな成長』でした。欲張ったお願いではないので、神も仏も聞き入れてくれたはずです。

さて、3学期がスタートし1週間が過ぎました。子どもたちにとってすばらしい学校生活になってほしいと教職員一同心から願いながら迎えた3学期でした。昨年12月下旬京都清水寺の貫主が1年間を象徴する字を書き上げましたが「変」という字でした。アメリカ発の金融危機に端を発した百年に一度といわれる不況下で、年越しのための「派遣村」なる言葉も定着するほどの企業による派遣労働者切り。学生の就職内定取り消しや雇用止め。首相交代というより放り投げ。等々上げればきりが無いほどまさに『変』な年でした。オバマ次期アメリカ大統領の「チェンジ（変革）」も、悪い状況のアメリカだからこそその変革のはずです。私なりに考えてみました。「変」の反対は何かと。安心、安全、安定、安気、安泰、安寧・・・やはり「安（あん）＝やすらか」の字が浮かびました。正しいか間違っているかは別として、今年は安心安全で安定した安気な生活で安寧安泰な世の中であってほしいと思います。学校においても同じ思いです。各家庭から多くの子どもの尊い命を預かり子どもの大切な未来を託されているからです。そのために日々の教育活動は当然のことながら、学校は具体的に子どもたちに働きかけなければなりません。始業式の日職員会議を行い3学期の目指す方向性を確認しました。それは①6学年は次のステップである中学校に責任を持って送り出すこと。1～5学年は次の学年に責任を持って引き渡せるようにすること。そのために仕上げの学期として学習に力をいれ基礎基本に欠ける児童の対策を講じる。②今まで以上に報告連絡相談を密にし、問題対応に当たる。③道徳教育の成果が子どもたちの姿から顕著に見られる。今後も民主的な学級作りや心の教育を軸とした教科・生徒指導に当たり、いじめ等の問題に積極的に取り組む。④不登校児童を生み出さない学級・学校づくりと、家庭との信頼関係の中で不登校傾向児童へ対応を行う。以上の4点を全教職員で決意しました。双葉東小学校は甲斐市の中で一番大きな学校です。それだけたくさんの個性の集合体です。一つの社会でもあります。問題が生ずるのは当然だと考えなければなりません。そのことを子ども自身が解決して行くことが学習であり、生きる力にもなります。わが子の成長だけを願うことでは、わが子の成長にはつながることにはならないはず。双葉東小学校一人一人の子どもたちの成長が必要なはず。そんな基本的な立場にたって、1・2学期同様、3学期も温かいご理解とご支援をお願いします。



## 3学期始業式に子どもたちに話したこと

あけましておめでとうございます。2学期終業式の時、校長先生は皆さんにお願いしました。それは「夢を持とう。そしてそのための今年の計画・目標を立てよう」ということでした。お願いを聞き届けてくれたでしょうか。計画を立てた人は担任の先生にぜひお話ししてください。

夢は夢でも違う夢もありますね。さて、この字はなんて読みますか。そうです。初夢（はつゆめ）と読みます。1月1日～3日の正月の間に見る夢のことを言います。ではこの字はなんて読みますか。大人でもしっかり読むのは難しい字です。一富士 二鷹 三茄子（いちふじにたかさんなすび）と読みます。何かというと、初夢に見ると縁起がよいといわれる諺です。意味は、富士山は日本一の山で理解できます。鷹は日本の中では一番賢く強い鳥ですね。3番目の茄子って何でしょう。そう、ナスのことです。今から400年以上前からある諺ですが、江戸時代初めて出回るナスはものすごく値段が高かったからという説もあります。ナスを、大きな目標を立てそれが実現すること、つまり「ナス=成す」。ということのようです。双葉東小学校に当てはめると、いつも東から学校を見守り続けてもらっている日本一の富士山のように、日本一の学校を目指し、鷹のように児童の皆さんが勉強や運動をして賢く強くなる目的を成す1年にしよう。ということです。もう一度言います。日本一の学校を目指し一人一人が賢く強くそしてやさしくなろう。それでは今日から3学期が始まります。目標は達成するためにあります。全員でがんばりましょう。

以上のような話を子どもたちの前でさせていただきました。低学年の子どもたちにはちょっと理解しにくい話だったと、降壇しながら反省しました。1年生から6年生571名に理解してもらう話は、実に難しいことを日々痛感しています。担任はもちろんですが、ぜひ各家庭でもフォローして下さい。思いを如何に同一できるかが達成できるか出来ないかの分かれ目だと思っています。



## 完成しつつある双葉東小学校の庭園

12月号でも紹介させていただきましたが、毎日校庭整備工事が急ピッチで取り組まれています。あまり見られない光景ですので、ぜひ一度学校まで足を運んでみてください。お出かけ出来ない場合は双葉東小学校のホームページに工事の様子がいくつか紹介されていますのでご覧いただきたいと思います。1週間前から校庭正門側に庭園工事が入りました。庭師の手にかかりすばらしい出来栄えになりそうですが、それ以上にうれしかったことは、これまでプールの裏にあり、日の目をあまり見なかった二宮金次郎の石像がよみがえったことです。「歩きながら本を読むなど危険この上なく、とんでもないことだ。」などと言わず、「道徳教育を中心にすえた教育を推進している双葉東小学校にふさわしいものだ」といっていただければありがたいことです。

二宮金次郎とは



1787年現在の神奈川県小田原市に生まれる。1856年に70歳で亡くなる。裕福な農家に生まれたが、川の氾濫で田畑を失い、父は14歳、母は16歳の時死別。まきを背負いながら本を読む姿は後に作られたものだが、おじさんに預けられ、虐げられてもなおかつ勤勉と儉約に努める金次郎の象徴的な姿である。24歳で実家を以前以上に裕福な家に再興する。その才覚を認められ小田原藩士の家の財政建て直しに成功したことから、名声が広がり、小田原藩の分家に当たる栃木県にある藩領の再興を依頼され成功させる。生涯に615の村々を立て直した。途中武士の位を授けられ二宮尊徳となる。「報徳思想」を唱えた農政家・思想家。